

世界防災フォーラム前日祭－災害に学び、未来へつなぐー  
2017年11月25日（土）東北大学百周年記念会館川内萩ホール  
議事録（第二部）

○板橋総合司会 お待たせいたしました。それでは、ただいまから世界防災フォーラム前日祭第2部「SENDAI BOSA I文化祭」を開催いたします。

震災後、国内外からさまざまなご支援をちょうだい致しました。

本日は、そのご支援に対する感謝の気持ちを込めて、東北を代表する伝統芸能、また復興を祈念する音楽のステージをお楽しみいただこうと思っております。

まず最初は、宮城県気仙沼市の浪板虎舞保存会の皆さんによる伝統芸能「浪板虎舞」をご覧いただきますが、この虎舞について少し解説をしていただこうと思います。

東北大学教授で民俗学者でもいらっしゃる川島秀一先生にご登場いただきましょう。

川島先生、よろしくお願ひいたします。

皆さん、どうぞ拍手を。よろしくお願ひいたします。

○川島秀一教授 川島です、よろしくお願ひします。

○板橋総合司会 川島先生ご自身も気仙沼のご出身なんですよ。

ということは、小さいころから、この虎舞はご覧になって。

○川島教授 そうですね。

港祭りによく出ていましたので、この太鼓のリズムは、小さいころからずっと聞いていました。

○板橋総合司会 相当、歴史のあるものなんですよ。

○川島教授 そうですね。

もともと虎舞というのは海に分布しているんですよ、全国的に見ても。

三陸沿岸、それから横須賀、神奈川県横須賀、静岡県南伊豆町。

四国では、香川県の瀬戸内側に虎舞があります。

○板橋総合司会 虎と海というのはどういう関連性があるんですか？

○川島教授 よく言われるのは、虎は千里往って千里還ってくる動物なので、漁業者にとっては、おめでたいということだったんですが、ただ、私が思うには、この虎舞、特に三陸沿岸の虎舞というのは江戸時代にですね、近松門左衛門が「人形浄瑠璃」で「国政爺合戦」という出し物を1715年に初演するわけですが、その和藤内の虎退治が、そういう浄瑠璃がですね、釜石に伝わって釜石で、その地元にあった、例えば伊勢の太神楽とか山伏神楽の権現舞などと複合して、成立したと思っております。

そこで、釜石から北へ大槌、山田と分布して、それから南の方へ伝わって、大船渡辺りで梯子虎舞というのを作り出すわけですね。それがずっと、宮城県北の浪板まで伝承してきたというのが大体の伝承図っていうんですかね。

○板橋総合司会 この梯子ですね、今日は。

○川島教授 本当は、もっと大きい。

○板橋総合司会 もっと大きいんですか？

○川島教授 この天井に届くぐらいの梯子を。  
ですから虎舞というのは、地の上で見るのではなくて仰ぎ見るみたいな感じの芸能ですね。

○板橋総合司会 なるほどね、ああ、そうですか。  
この浪板虎舞は大変歴史がありますが、  
震災のときは、このお道具は大丈夫だったんでしょうか？

○川島教授 道具類は大丈夫だったんですが、やはり、ここの浪板虎舞保存会というのは、全戸が会員なんですね。

だから集落と芸能が一体化しているわけなんですけど、20人くらい、亡くなった方がいらっしゃいました。

今回の、6年前の東日本大震災ほど、復興の中での民俗芸能の役割みたいのが注目された災害というのはなかったと思うんですが。

○板橋総合司会 そうですね。

○川島教授 浪板でもですね、もう4月、5月には虎舞を始めています。

それで、中には一関に仮設住宅にいた人も、練習のときには集まってきて、そこで、もう一度やろうということになっていました。

震災後、私は前会長の昆野さんから、しみじみ言われたんですが、「虎で助けられた」というような言い方をしました。

集落を結成するにはやはり、こういった芸能が大切だということですかね。

もう1つ、お話していいですか。

○板橋総合司会 どうぞ。

○川島教授 虎舞に岩手県の釜石市の鶴住居地区ってあるんですが、その片岸っていうところにも虎舞がありまして。

私は震災の年、虎舞がお祭りのときに奉納されるということで、行ってみたんですね。  
ところが、そこは浪板さんとは違って衣装から何から流されて、それでも虎舞が奉納された。  
そのときの会長のお言葉は、「みんな流されたけど、身体で覚えたものは流されないからね」って  
言ってくれたんですね。  
私は本当の復興というのは、このような、身体に覚えているものから始まらなければダメだなと、  
そのとき思った次第です。

○板橋総合司会 いずれにしても、被災地にとって、ものすごく力を与えてくれた虎舞ですよ  
ね。今日ではですね、小学校3年生から上は70代の方まで、総勢で虎舞を舞っていただきます。  
では、まずご覧いただくことにいたしましょうか。  
では、どうぞお楽しみください。

<気仙沼・浪板虎舞>

○板橋総合司会 ありがとうございます。  
浪板虎舞保存会の皆さんにもう一度、大きな拍手をお送りください！  
素晴らしいですね！川島先生、そして代表の小野寺さん、こちらにお越しく下さい。

見とれてしまいました。

素晴らしいですね。

現在、会長をお務めの小野寺優一さんなんですが、今朝5時に集合して、6時に気仙沼を出発  
してこちらにお越しいただいたということで、早朝からありがとうございます。  
私は初めて拝見しましたが、勇壮なものですね。虎の中には、3人入っているんですか？

○小野寺優一会長 3人です。

○板橋総合司会 相当修業を積みませんか、あの動きは。

○小野寺会長 かなり訓練が必要ですね。虎の頭だけで、4kgありますから。

○板橋総合司会 そうなんですか！

○小野寺会長 はい、それを振っているうちに、10kgの重さになったり、15kgの重さ  
になるんですね。

ですから、あとで腕が上がらなくなるというような状態ですので、ですから、3人で交代。

そして、控えもおりまして、途中で、みんなにわからないように、腹の中から入って、それで、  
交代でという。今日は4人なんですが、いつもですと5人か6人、倍ぐらいの人数がおりまして、  
それで虎を演じます。

○板橋総合司会　　そうですか。すごいですね。  
虎頭が真新しかったんですが、実は、今年できたばかりなんだそうですね。

○小野寺会長　　そうです。  
前の虎は、先生がおっしゃっていたように、ほぼ100年使いまして、それを要するに、選手交代というか、まだ引退したわけではありませんが、新しい虎を震災前に、ある人に発注をいたしまして、今年の6月に出来上がって、それが今の新しい虎ということで。  
まあ2代目というか、そんな感じでやらせてもらっておりました。

○板橋総合司会　　そうですか。でも川島先生がご覧になっていたのは、初代のものというか…。  
100年物の虎頭ですと、やはり、また風情が違いますでしょうね。

○川島教授　　そうですね。当時の宮大工さんが作った虎頭ですね。  
結構、重いんですが、迫力はもっとありましたね。

○板橋総合司会　　でしょうね。  
会場の中を巡って、観客の方の頭を虎が噛んでましたよね。あれはどういう意味ですか？

○小野寺会長　　あれはですね、健康祈願というか、元気になってくださいよと。  
それで虎をよろしく願いますねという思いを込めて。  
そして、みんな、家内安全とか、そういう、全体的に普通の家庭で喜ばれるようなことを、皆さんにお分けするというか、そういうふうな。  
要するに虎の威勢のよさを注入してやるっていうか、そんな感じもあります。

○板橋総合司会　　そうですか。  
今日、今村先生も頭を噛んでいただきましたね。

○小野寺会長　　今村先生、2回。

○板橋総合司会　　2回も！じゃあもう、悪いものが全て取り払われて。

○小野寺会長　　これから防災に拍車がかかるんじゃないかと思います。

○板橋総合司会　　そうなりそうですね。  
ところで、震災後、早い時期から、この虎を演じられたそうですね。

○小野寺会長　　そうですね。  
3月11日の震災から即、立ち上がりまして、もう4月には話し合いがされて、5月の鹿折小

学校で、カリフォルニアにモース高校というのがありまして、その学校のシンボルが虎だったんですね。それで震災に遭った方々に、激励したり、慰問したりしたいと、そういう思いを込めて、どこか小学校で虎に関わることをやっているとところがないかということ、カリフォルニアのモース高校の関係者を通じて宮城県の県警本部長に来て、そして気仙沼の警察署を通じて、鹿折小学校でもやってるよということで、私のところに電話があって、そこで5月に、モース高校から送られたものをいただきながら、そしてアメリカの札幌にある、領事館の、ハリスさんという領事官まで来ていただいて、そして伝達していただいて、そこで演技したのが始まりでございました。

○板橋総合司会 5月に。ああ、そうですか。

○小野寺会長 その後、今度は6月と7月と8月に、横浜と、それから柏崎と、横須賀と、立て続けに、招聘をいただきまして、そしてみんなの力を結集して、つらさ、苦しさ、悲しさ乗り越えて、遠征して、皆さんに、むしろ皆さんに力を与え、我々も力をいただくと、そういうふうな演技をしてまいりました。

○板橋総合司会 すばらしいですね。川島先生、犠牲になられた方もおられた中で、早々にこの虎舞を演じられて・・・。

私たちにも力をいただきますけれど、みなさまも演じることで元気を取り戻すというか。

○川島教授 しかも、実はこの浪板虎舞は、今年、宮城県の無形民俗文化財に指定されたんですね。

○板橋総合司会 川島先生のご尽力があったから。

○小野寺会長 おかげさまで。ありがとうございました。

○川島教授 そうじゃないんです。たまたま文化財審議会委員をしていて、民俗担当だったということです。

むしろ、本当のことを言いますと、地元の芸能のほうが強く言いにくい、大きな声で言いにくい。ただ、強調したことは、この浪板虎舞は津波、震災を経て強くなった芸能だと思って。それを強調して、指定まで運んだというわけです。

○板橋総合司会 そうですか。第1部で、人とのつながり、絆がどんなに防災にとって大事かというお話も出たんですけども、まさに浪板地区は、この虎舞のおかげで、ものすごく強い絆があるということですね。

○小野寺会長 つながりがもともとあった地域ですので、それが1つに更に、まとまったとい

うか、絆が強くなって、縋りが更に強くなって、もう切っても切れない縁が地域全体に広がったと。虎舞があればこそ、先ほど川島先生が、前会長の昆野さんの言葉のとおり、この虎舞があったからこそ、すばらしい地域に、また復活できる。そして、人の心もよみがえっていると。こういうふうなことになろうかと思えます。

○板橋総合司会 本当に今日は遠いところからお越しいただき、すばらしいものを拝見させていただきました。

浪板虎舞保存会の皆さん、そして小野寺さんに、もう一度、皆様、拍手をお送りください。

○小野寺会長 どうもありがとうございました。

○板橋総合司会 ありがとうございました。川島先生も、ありがとうございました。

○板橋総合司会

ああ、なんか本当に、力をおなかの底からいただいた気がいたしました。

それでは、続いては音楽のステージに移りたいと思います。

まずはじめに、仙台フィルハーモニー管弦楽団の4人のメンバーの方々によりますアンサンブルをお楽しみいただきます。メンバーをご紹介しますいただきます。

フルートの戸田敦さん。ヴァイオリンの小山あずささん。ヴィオラの飯野和英さん。そしてチェロの吉岡知広さん。ではこのカルテットによる演奏を、どうぞお楽しみください。

<演奏>

○戸田敦さん ありがとうございます。

1曲目はコンサートのオープニングにふさわしいヨハン・シュトラウス2世の「観光列車」をお送りしました。続きまして、ヴァイオリンの大活躍します曲です。

モンティの「チャールダシュ」。

チャールダシュというのは、ハンガリーのジプシーを中心にして発展した音楽であります。モンティの作曲しました「チャールダシュ」は非常に緩急の差が激しい、このヴァイオリンが大活躍しますのでお楽しみください。

<演奏>

○戸田さん ありがとうございます。

早いもので、もう最後の曲になってしまいましたが、モーツァルトの作曲しました「フルート四重奏」を演奏します。これは、この編成では最も有名な曲で、ホテルのロビーとかでもよく流れたりして、曲名は知らなくても皆さん、恐らく一度は耳にしたことのある曲だと思います。それではモーツァルトの「フルート四重奏」、3楽章続けてお聴きください。

<演奏>

○板橋総合司会 ありがとうございます。

仙台フィルハーモニー管弦楽団の4人の皆様による演奏をお楽しみいただきました。

この萩ホール空間にとってもマッチしますね。ありがとうございます。

仙フィルの皆さんは冒頭の郡市長のお話にもありましたが、震災後、3月26日が第1回だったそうなのですが、そこから復興コンサートと銘打って、実にこれまで650回以上に及ぶコンサートを、避難所、仮設住宅、被災地の学校や街角で演奏活動を続けてこられています。

私も何度か聴かせていただいたことがあるんですが、仙フィルの皆さんは、演奏を耳にした皆さんが、張り詰めたお気持ちが和らいでいくのを間近に感じられて、まさに音楽が持つ力を実感なされたというふうにおっしゃっています。

その活動は今も続いていて、現在は沿岸部の被災地ですとか、仙台市内の復興公営住宅などに外向いて復興コンサートを行っていらっしゃいます。

まさに、この、音楽を被災された皆様のもとに届けながら、絆をつなぐという活動が高く評価されて、さまざまな賞も受賞なさっているということです。

それでは続いて、復興祈念コンサート、今度は設立が昭和34年という大変歴史ある、NHK仙台少年少女合唱隊の皆様による合唱をお楽しみいただきます。

指揮を務めてくださるのは原田博之さんです。では、どうぞ、よろしくお願いいたします。

<合唱>

○女子生徒 皆さん、こんにちは。NHK仙台少年少女合唱隊です。

昭和34年、仙台市政70周年を記念して設立された合唱隊は今年で59年目を迎えました。最初に歌った曲は合唱隊創設者・福井文彦作曲の「地球よ」でした。

続いて、大中恩作曲による「いぬのおまわりさん」、「ドロップスのうた」を歌います。

どうぞ、お聴きください。

<合唱>

○女子生徒 続いて、文部省唱歌の「もみじ」と「雪」。

最後に、大中恩作曲の「おとなマーチ」を歌います。どうぞ、お聴きください。

<合唱>

○板橋総合司会 ありがとうございます。

NHK仙台少年少女合唱隊の皆さんの合唱をお楽しみいただきました。

皆さんは12月3日に第58回の定期演奏会を控えているということです。

それではここで、仙フィルの4人の皆さんに、もう一度ご登場いただきまして、アンサンブルと合唱の共演をお楽しみいただこうと思います。

2曲、お聴きいただきますが、まず最初の曲は「群青」という曲です。東日本大震災による津波と、その後の原発事故で、甚大な被害を受けた福島県南相馬市の小高区。そこにあります、小高中学校の生徒たちが、離ればなれになってしまった仲間を思って、つぶやいたり、書き留めたりした言葉の数々を、当時の音楽の先生が詩につづって曲をつけたというのが、この「群青」という作品です。

「見える景色は違っても 遠い場所で 君も同じ空 きっと見上げてるはず きっとまた会おう ああ街で会おう 群青の街で」という、とても感動的な歌詞を持った1曲です。ではメンバーの皆さんにご登場いただきましょうか。どうぞ、お入りください。

それではアンサンブルと合唱の共演、「群青」をお楽しみください。

<アンサンブルと合唱の共演>

○板橋総合司会 「群青」をお聴きいただきました。

復興祈念コンサート最後の1曲となりました。

最後にお聴きいただくのは、「花は咲く」です。

震災後、最も多く耳にした曲であり、被災地に希望を与えてくれた1曲ではなかったでしょうか。仙台出身の映画監督・岩井俊二さんが作詞を手がけ、仙台出身の菅野よう子さんが作曲なされた1曲。その曲を最後にお楽しみいただきましょう。では、お願いいたします。

- ♪「真っ白な 雪道に 春風香る」
- ♪「わたしは なつかしい」
- ♪「あの街を 思い出す」
- ♪「叶えたい 夢もあった」
- ♪「変わりたい 自分もいた」
- ♪「今はただ なつかしい」
- ♪「あの人を 思い出す」
- ♪「誰かの歌が聞こえる」
- ♪「誰かを励ましてる」
- ♪「誰かの笑顔が見える」
- ♪「悲しみの向こう側に」
- ♪「花は 花は 花は咲く」
- ♪「いつか生まれる君に」
- ♪「花は 花は 花は咲く」
- ♪「わたしは何を残しただろう」
- ♪「夜空の 向こうの 朝の気配に」
- ♪「わたしは なつかしい」



- ♪「あの日々を 思い出す」
- ♪「傷ついて 傷つけて」
- ♪「報われず 泣いたりして」
- ♪「今はただ 愛おいしい」
- ♪「あの人を 思い出す」
- ♪「誰かの想いが見える」
- ♪「誰かと結ばれてる」
- ♪「誰かの未来が見える」
- ♪「悲しみの向こう側に」
- ♪「花は 花は 花は咲く」
- ♪「いつか生まれる君に」
- ♪「花は 花は 花は咲く」
- ♪「わたしは何を残しただろう」 ♪「花は 花は 花は咲く」
- ♪「いつか生まれる君に」
- ♪「花は 花は 花は咲く」
- ♪「わたしは何を残しただろう」
- ♪「花は 花は 花は咲く」
- ♪「いつか生まれる君に」
- ♪「花は 花は 花は咲く」
- ♪「いつか恋する君のために」

○板橋総合司会 ありがとうございます。

仙台フィルハーモニー管弦楽団の皆様、そしてNHK仙台少年少女合唱隊の皆様でした。盛大な拍手をお送りください。皆様、ありがとうございます。

この「花は咲く」の歌詞と楽譜が、皆様のお手元のプログラムの裏表紙にございました。本来でしたら、それをご案内すべきだったんですけども、ご自宅にお戻りになったら、ぜひ、その歌詞を、もう一度かみ締めながら歌っていただければと思います。

お届けしてまいりました世界防災フォーラム前日祭、そろそろ閉会のお時間となりました。

世界防災フォーラム事務局長の小野裕一東北大学教授から閉会のご挨拶を申し上げます。

○小野裕一・世界防災フォーラム事務局長（東北大学災害科学国際研究所教授）

胸がいっぱいになってしましまして、閉会の言葉を考えていたんですけど、全部、飛んでしまいました。

この1部2部を通して、文化と芸術と教育、そういうのがいかに大切かということ、今日は身をもって体験させていただきました。出演者の皆様、それからお集まりいただきました参加者の皆様、本当にありがとうございました。

いくつか心に残ったことがありますして、前半の第1部のほうのディスカッションのところ質問があって、どういうふうに伝えたらいいのかと、悩みを高校生の方が打ち明けて、それに対し

て、黒潮町長さんから、突き詰めて考えなさいということと言われて、研ぎ澄ませて、突き詰めて、つまり真剣に考えてみなさいというアドバイスだったと思うんですけども、それは、答えが見つかるかどうかはわかりませんが、その真剣に取り組む姿を見て、人は心を動かされて、何か波及していくんだというメッセージだったと思います。

それからもう1つの質問が、震災から6年半経って、我々に今何ができるかという質問もあったと思うんですけども、そういう意味でも、この世界防災フォーラムというのは、この6年半後に始めることができ、私もとても今日、文化、芸術、教育の力というものを感じて、この文化祭を行って非常に有意義だったと思っています。

特に最後の合唱を聴きながら、被災地で全てをなくされた方がどういう思いで、こういう歌を聴いたかと、すごく、胸に迫るものがありました。本当にこの清涼な歌声を、文化の力で復興に役立てていければ、大変私としても、事務局一同ありがたいと思っております。本当にありがとうございました。

最後に、アナウンスメントがあるんですけども、今日で防災フォーラムは、終わりではなくて始まりなんですね。今日が始まり、第1日目です。

明日は特に一般公開のセッションで、この萩ホールも使うんですが、ちょっと降りたところの国際センター、1日中オープンで、どなたもご参加いただけるということになっておりますので、ぜひご参加ください。それから今日、お手持ちの資料の中に、この前日祭についてのアンケートの用紙が入っていると思います。ぜひ、記入していただいて、お帰りの際にスタッフのほうにお渡しいただければと思います。

それから、出口のところ、この世界防災フォーラムで、せっかく一般の方、専門家の方が、たくさん国内外からお集まりいただいているので、別に、ワールド防災サーベイという、これからどういうふうな災害が起きるだろうとか、意識調査をさせていただいて、その最終結果を閉会式のときに発表させていただきたいと思っております。

ちょっと長くなりましたけども、本当に皆さん、今日は、お集まりいただきまして大変ありがとうございました。

**○板橋総合司会** 記念すべき第1回世界防災フォーラム前日祭、これで全てのプログラムを終了いたしました。長時間にわたりお付き合いいただきまして、本当にありがとうございました。

小野先生のごあいさつにもありましたように、いよいよ明日から本体会議、さまざまなセッションが始まります。ぜひ皆様、1つでも2つでもセッションに足を運んでいただいて、防災を身近なものにしていただければ幸いです。

本日は、長時間にわたり本当にありがとうございました。

●以上●